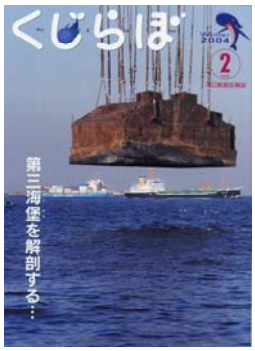
005 Cacco

塔の断章	乾くるみ 講談社文庫	「塔の序章」から「塔の解説」まで四つの章からなる本格ミステリー。最初の章で「さて犯人は誰でしょう？」という作者の挑戦が始まります。作者自身による謎解き「塔の解説」には「読者を間違った推理に誘導した」とあり、そういう罠に見事にはまる楽しみもあります。というより読者を騙すためだけに書かれたと言っていいかも。作者と読者の関係がとても密なミステリー。作者渾身のトリックを看破するのは本格ミステリーの醍醐味です。	☆☆☆☆
小生物語	乙一 幻冬舎	ＴＩＣＡさんに乙一作品は全部貸してもらっているので、たまには一冊くらい自分で買って貸さなければ！ときばって買ってしまいました。自身のＨＰに連載していた日記をまとめたもの。冒頭に「買ったらソンするよ」という作者の注意書きあり。引越し時にソファに座って付いてきた青白い顔の少年はなんだかおかしかった。吉田戦車さん描くところのキャラをしっかり想像してました。ミスチル話が出てくるところもとってもうれしい。ＴＩＣＡさん推薦の乙一、最初はイマイチだったけど今やエッセイも読めるくらい好きです。	☆☆☆ＴＩＣＡさんに感謝感謝。
僕の殺人	太田忠司 講談社文庫	「僕はこの事件の犠牲者であり加害者であり探偵であり証人であり、またトリックであった」という壮大な言葉で始まる割りに、想定の範囲内。犯人探しである以上、この人でしかありえないという犯人を作らなければ。過去の事件に於けるトリックのあまりの古さにびっくり。	☆☆★
迷宮遡行	貫井徳郎 新潮文庫	失業中の男の妻がある日突然置手紙を残し失踪する。男は数少ない糸を手繰り寄せ真相に近づいていく。最初は軽いタッチでユーモラスな感もある話が、友人の死をきっかけに重い話に変貌する。ラストがこれじゃなんのために熱心に妻を探したのかわからない。長編小説を齟齬なく書くのってきっととても難しいんだろう。	☆☆

龍宮	川上弘美 文藝春秋	「蛇を踏む」で芥川賞受賞。グリコちゃんＴＩＣＡさんの好きな「先生の鞄」の作者。想像していた雰囲気とは違う奇妙な短編連作で、どれも「人でないもの」を主役に置いています。昔は蛸だった男、小柄な霊能者イト、アブラゲが好きでケーンと鳴く９３才の正太、台所の荒神様と話す女、地下に潜って暮らすうごろもちの夫婦、七代前の先祖にひとめぼれする女、海から上がって陸で暮らす海馬。読みすすむうちにだんだん面白くなった。視覚的にしても面白そうな内容。つげ義春さんに漫画化してほしい。	☆☆☆☆
ＦＬＹ、ＤＡＤＤＹ、ＦＬＡＹ	金城一紀 講談社	家族を愛し平穏に暮らしていた中年サラリーマンに突然降りかかった凶暴な出来事。家族のため、自分のために冴えないサラリーマンが落ちこぼれ高校生の協力で立ち上がる。この夏映画が公開される。変化するサラリーマン・鈴木一役は堤真一、鍛え上げた体と冷静な頭脳を持つ高校生・朴舜臣役は岡田准一。面白そう。	☆☆☆☆
	作画・ 秋童学 小学館	小説の漫画版。 絵は下手だけど、話の面白さで読めます。もともと原作が漫画的、映画的であるのかも。 朴舜臣のイメージが映画と違いすぎるのが残念。 	☆☆☆
エハイク エハイク２ （悪い笛）	吉田戦車 フリー スタイル	 ｙｕｋｏ師匠の指導のもと、日夜習作に励んでいる**うさお**。今年のお誕生日には「俳句の腕があがるように」の願いを込めて、鬼才吉田戦車の俳句本をプレゼント。がんばれ！ 	☆☆☆☆

湾口航路広報誌

くじらぼ



平成 12 年 12 月から第三海堡撤去事業がスタートしたのは新聞紙上などで知っていましたが、その後引き上げられた建造物がどうなったのかは気になるところでした。先日図書館で東京湾口航路事務所発行の広報誌**くじらぼ**を発見。追浜展示場に展示されていることを知りました。すぐにでも見学に行きたいところですが、１０名以上集まらないと見せてもらえないとか。交友関係ゴクセマの身としては少々ホネがおれる人数です。だいたいどれだけの人が「見たい！」って思うんでしょ。「六本木ヒルズに食事に行こう」なんてのと訳が違う・・・。

下の写真がその展示物です。赤枠で囲った砲台などはこれから順次引き上げ作業が行われるようで、ＨＰをまめにチェックしていれば引上げ作業に立ち会うチャンスもあるかも。

長い間水の中に埋没していた、歴史をまとった建造物がその姿を現す瞬間。できたらこの目で見てみたい。

ぜひ一緒に追浜展示場見学に行きたいって方は、

うさおまたはＣａｃｃｏまで連絡くださいね～(*^_^*)